



## サウジアラビア：アブドゥッラー国王の逝去・サルマーン皇太子の国王即位

1月23日午前1時（現地時間）、サウジアラビアのアブドゥッラー国王が逝去した。また、サルマーン皇太子が王族による忠誠の表明を受け国王に即位するとともに、ムクリン副皇太子が皇太子に就任した。いずれも王宮府による発表。

### 評価

アブドゥッラー国王は90歳（諸説あり）の高齢であり、近年では海外で療養したり、呼吸を補助するチューブをつけて会談に臨む様子が報じられたりするなど、健康状態を不安視する声があった。昨年末の12月31日には肺炎のため入院したが、1月3日には王宮府から健康状態は安定しているとの声明が発出されていた。

王位継承に関しては、事前に規定されていたとおり、サルマーン皇太子が国王に、ムクリン副皇太子が皇太子に就任した。サルマーン新国王は、1935年12月31日生まれとされており、現在79歳。有力王族の「ステイリ・セブン」の一人であり、1955-60年、1963-2011年の50年以上に渡ってリヤド州知事を務めていた。2011年11月に国防相に就任し、2012年6月から皇太子兼副首相兼国防相の地位に就いていた。

ムクリン新皇太子は、初代国王アブドゥルアジーズの末子であり、1945年9月15日生まれ（69歳）。2005年から2012年まで総合情報庁長官を務め、2012年7月に国王顧問兼特使、2013年2月1日に第二副首相、2014年3月27日に副皇太子に任命された。副皇太子の任命はサウジアラビアの歴史上初のことであり、王位継承候補者が高齢化するなか（2011年、2012年にはスルターン皇太子、ナーイフ皇太子が相次いで逝去）、王位継承のラインを事前に確定させておくというねらいがあった。

このことから、王位継承自体に関しては、特に混乱もなく、無事に完了すると見られる。他方、1995年にファハド国王が職務遂行不能になって以降、20年以上サウジアラビアを動かしてきたアブドゥッラー国王亡き後の空白をいかに埋めていくかが、今後の焦点となろう。特に、サルマーン新国王自身が79歳と若くないことから、ムクリン新皇太子の次の後継者候補について、初代国王の孫にあたる第3世代の中から誰が頭角を現すのかが注目される。

（村上研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会HPをご覧ください。URL：<http://www.meij.or.jp/>